

澤木敬郎先生を偲んで

澤木敬郎先生は旧制上田中学のご出身である。その在学中に秀才の誉れ高かったことはいうまでもなく、先生は昭和二三年三月に上田中学を卒業され同年四月に第一高等学校に入学された。第一高等学校は一から八までであったいわゆるナンバースクールのうちで最も難関といわれた「一高」のことである。

ところが、先生は信州のお生まれではない。生まれは東京の新宿区であり、当時は牛込区と呼ばれていたところの築地町である。先生が上田中学ご出身であるのは、先生が第二次大戦の戦渦の影響を受け、府立五中から上田中学に転入学され東京から信州に疎開されたことによるものとお聞きしている。先生は人に厳しさを感じさせる反面でやさしい感じを与えられたのは、中学時代を信州ですごされたことが影響していたのかもしれない。

その後、先生は、第一高等学校を卒業することなく、第一学年の修了とともに東京大学教養学部に入學することになった。昭和二四年四月のことである。これは当時の学制改革に伴うもので、一高が東大教養学部になったことによるものである。この間の事情についてはかつて先生から直接お聞きした記憶がある。

先生は、昭和二四年に東大に入學されて三年後の昭和二七年四月に法学部第一類に進學された。現在では教養学部を二年で修了し専門学部に進學しうるのであるが、先生は三年かかられた。これも当時の学制改革に伴うものであった。そして、法学部での二年間の学生生活のうちに、昭和二九年四月に東京大学大学院社会科学研究所に進學された。今日では東大の大学院として法学政治学研究科が設置されているが、当時は経済学研究科をも含めて広く

社会科学研究科が設けられていたのである。

先生は、社会科学研究科において基礎法学専門課程に籍を置かれ、二年間の修士課程を修了されて法学修士になり、さらに三年間の博士課程を修了されて法学博士になられた。昭和三四年三月のことである。先生の博士論文は国際私法に関するものではなく比較法に関するものであったとお聞きしている。そして、先生は、直ちに四月から創設もない立教大学法学部に助教授として赴任された。

その後、先生は、昭和三七年からコロンビア大学に一年間留学されたが、この期間を除き、先生は終始この立教大学において研究と教育に就事され、しかも、昭和四五年四月から五〇年三月まで実に五年間という長期にわたり法学科長を勤められ、引き続き二年間にわたり法学部長兼法学研究科委員長を勤められた。さらに、ご苦勞にも、昭和五六年から一年間、再度の法学部長兼法学研究科委員長を勤められたのである。

先生は、このような研究・教育と学内行政の仕事の外に、法律相談室の顧問をされ学生の面倒をよく見られたが、そのかたわら、お酒を愛しお寿司を好まれた。池袋駅から立教大学までの道のりはそれ程長くはないが、その間に何軒かのお寿司屋があり、先生は目に入ったすべてのお寿司屋に寄って味わわれ、その結果は、いまでも立教大学の直ぐ近くにあるお寿司屋の味が一番よかったとのことである。これは先生からお聞きしたのかそのお寿司屋の主人から聞いたのか記憶は定かでないが、お店の人から聞いた話でもあったように思われる。

学生やその他の方々から深く敬愛された澤木先生は、研究休暇期間中の平成五年九月二〇日に六二歳の若さでお亡くなりになった。ここに、あらためてお悔み申し上げるとともに、立教法学四〇号を澤木先生追悼号とさせていたたく次第である。